

日本のうたごえ祭典in神戸・ひょうご

2025. 11. 24 (祝・月) 大音楽会 (ジーライオン アリーナ神戸) で歌う

被爆80年記念ソング

生きてゆくために

生きてゆくためにニュース

No.1 7/1

発行／日本のうたごえ全国協議会
事務局 兵庫のうたごえ協議会

被爆80周年記念ソング

「生きてゆくために」が全国合同で歌います。

～歌う団員を募集しています～

日本被団協のノーベル平和賞受賞、神戸港非核決議から50年の意味は重い

日本のうたごえ全国 協議会会長

田中嘉治氏 からの メッセージ



被爆・戦後80年を記念して日本のうたごえ全国協議会では、広く歌って広められる「ソング」の形式で、詞、曲の公募を行うことといたしました。応募詞の中から作曲する三つの作品が選ばれ、曲付けについては全国から短期間にもかかわらず『いま君とともに』36曲、『被爆のまち』23曲、『生きてゆくために』32曲の計91曲というたくさんの応募がありました。

選考委員は、新実徳英(作曲家)、田中嘉治(日本のうたごえ全国協議会会長)、鳴海卓(名古屋青年合唱団指揮者)、山本恵造(関西合唱団指揮者)、渡辺享則(長野合唱団指揮者)各氏による選考委員により、最優秀賞に林悟作詞、石川伸二作曲の「生きてゆくために」が選ばれました。

「日本被団協のノーベル平和賞受賞の輝かしい報せも追い風に、『青い空は』に続く歌を、被爆者の願いを前に押し進めようとする行動の表れともいえるだろう」(渡辺選考委員会責任者談)

「生きてゆくために」は、長崎の鐘の音が聞こえてくるような心ときめくメロディが印象的。他にも力作があり、誇りをもって歌い上げることが被爆80年を記念する大きなうねりともなることを確信して、大いに歌い広げて行きましょう。

作詞者 林 悟さんの談話

20代前半、平和行進を知り、焼津から広島、長崎へ通し行進してみたい、と思いました。残念ながら喘息になり、とても叶わない日々を過ごすことになりました。50代になって、それなら詩を書こうと久保山愛吉さんの言葉から「3.1ビキニのあの人の言葉」、さらに「ヒロシマ・ナガサキ この文字と言葉」というフレーズも浮かんできてメモし、そのまま温めていました。

今回、被団協ノーベル平和賞受賞のニュースに、この詩を思い出し、書いてサークル(岐阜・中津川合唱団満天星)の機関紙に投稿。機関紙編集者が公募をと言ってくれました。

思いもかけず、入選に少し面食らっています。多くの人に「生きている人生」でなく、「生きていく人生」という思いが伝わればと思っています。ありがとうございました。(うたごえ新聞より)

作曲者 石川伸二さんの 談話

迷わず応募を決めた

「生きてゆくために」作曲のきっかけは、今年の祭典が神戸で開催されることにつきます。せっかく神戸であるのだから、できるだけ沢山の合発や特別音楽会などに足を運ぶことで、いささかでも財政的に貢献できればと思っていました。そんな中での被爆80年記念ソングの募集でした。迷わず応募を決めました。「生きてゆくために」の詞は1番から3番まで書かれていましたが、この枠を取り払うことで、曲としての体裁を整えることができました。♪長崎の鐘の音響きわたる空の～♪は最初に浮かんだフレーズです。この詞は、たぶん平和行進に参加するなかで長崎まで足を運んだ作者が自分の生き方を見いだしていくというストーリーだと思います。このサビのフレーズはブレスを深くとり、♪～長崎の鐘の音～♪の「音」は短くならず次の♪響きわたる～♪につなぎ大きな波を感じてうたってほしいところです。

若い人たちにも受け入れられるような曲を

ソングですから、ギター1本でどこでも気軽に歌え、若い人たちにも受け入れられるような曲を心がけました。そのひとつとして間奏と後奏にヴォカリーズを入れてみました。ここは楽譜には書いていませんが、War Noと歌います。具体的な発語(発声)はWo oー o oー o Noーoーと歌いたいです。最後は会場の皆さんも巻き込んで大合唱になればと勝手なイメージを描いています。

ただのお客さんのはずが、大音楽会のステージで指揮をすることになるとは、人生って何があるかわからないものですね。

